

あなたの命を守る住宅用火災警報器は、維持管理が大切です！！

住宅用火災警報器はあなたの命を守る「用心棒」です。

いざ火災が発生した場合、早期に知らせてくれる住宅用火災警報器がしっかり鳴るかどうか点検してみましょう。

点検することで、「用心棒」があなたに安心の声（鳴動音）を届けてくれます。

ただ「用心棒」も歳をとると（古くなると）、電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感知しなくなる危険があります。

「いざ」というときに「用心棒」が危険を知らせてくれるように（きちんと作動するよう）以下の点に注意し、日ごろから維持管理を行ってください。

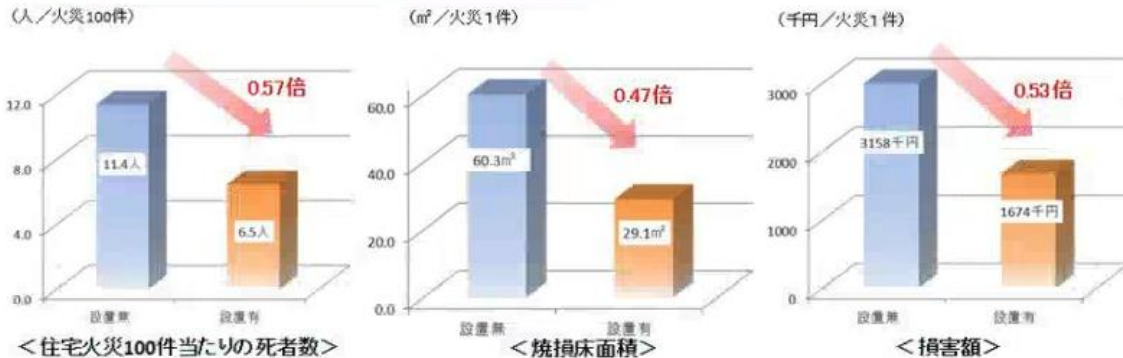
住宅用火災警報器の効果

H27年からH29年までの3年間に於ける失火を原因とした住宅火災について、火災報告を基に、住宅用火災警報器の効果进行分析。

※ ここでは、住宅火災のうち原因経路が「放火」又は「放火の疑い」であるものを除く件数を、「失火を原因とした住宅火災」の件数としている。

死者数、焼損床面積及び損害額を見ると、住宅用火災警報器を設置している場合は、設置していない場合に比べ、死者の発生は4割減、焼損床面積と損害額は概ね半減。

住宅用火災警報器を設置すれば、火災発生時の死亡リスクや損失の拡大リスクが大幅に減少。



注1「死者」は、火災現場において火災に直接起因して死亡した者であり、火災により発生した後48時間以内に死亡した者を含む。
注2「死者の発生した経路が「放火・自爆」「放火自殺、放火自殺者の被害者、放火犯人の犠牲者」であるものを除く。

◎定期的な作動点検

1年に1回程度、点検ボタンを押すなどして作動点検を行いましょう。

作動確認の方法は、機種やメーカーによって異なりますので取扱説明書などを確認してください。



◎定期的なお手入れ

ほこりやクモの巣がつくと火災を感知しにくくなります。

また、住宅用火災警報器にほこりが入ると誤作動を起こす場合があります。

定期的にお掃除をしましょう。

◎電池切れに注意

ほとんどの機種は電池が切れそうになると音や光で知らせてくれます。

警報音には日ごろから注意しましょう。

古い警報器の場合は、電池を交換しても内部の電子部品が経年劣化しているため、10年を目安に本体を交換オススメします。

◎設置時期の確認

住宅用火災警報器を設置したときに記入した「設置年月」または、本体に記載されている「製造年」を確認してください。

新しい住宅用火災警報器に交換したら、本体の側面などに油性ペンで「設置年月日」を記入しましょう。



◎交換した住宅用火災警報器の処分方法

交換などで住宅用火災警報器を捨てる時は本体と電池を別々に捨てましょう。

本体は「燃やせないごみ」として、電池は「蛍光管等」の収集日に廃棄してください。